



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年8月発行（第88号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 【目次】

- ◎巻頭メッセージ：「光よりも闇を愛する」 エレミヤ
- ◎時代を悟る「ヨガと瞑想」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

### [巻頭メッセージ]

#### 「光よりも闇を愛する」 by エレミヤ

ヨハネ3:19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。

3:20 悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。

3:21 しかし、真理を行なう者は、光のほうに来る。その行ないが神にあってなされたことが明らかにされるためである。

本日は「光よりも闇を愛する」という題でメッセージしたい、と思います。人々が真理の光よりも闇の教理を愛するようになる、このことを見ていきたい、と思うのです。

上記テキストに沿って見ていきましょう。

“19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。”

ここには、光が既に世に来ているのに、人々が光よりも闇を愛したことが書かれています。このことばの意味合いを考えてみましょう。

#### <人間は誰が創造したのか？>

一つの例としてこの世の人が持つ疑問、人間はどのようにして存在するようになったのか？という問題を考えてみましょう。

この質問への答えは聖書を信じるクリスチャンにとり、簡単であり、シンプルです。答えは明白です。聖書の創世記に書いてあるように、人間は神により創造されたのです。これがはっきりした光であり、間違いのない正しい答えです。

### <進化論は闇の教え>

さて、このように明々白々な事実に対して、サタンは嘘を捏造し、偽りを創作しました。他でもない進化論の教えです。この教えは人間が猿から進化したとします。人間は偶然にできあがったものであり、神が創造したものではない、と説くのです。しかし、そんなはずがありません。単純な構造の箸だって偶然にはできません。箸は意思を持つ人が作らない限り、できあがらないのです。まして、箸よりも何倍も複雑な構造を持つ人間の目や頭脳が偶然になどできるはずがないのです。これは子供でもわかることです。

しかし、今の時代、多くの人がこの教えを受入れています。何故でしょう？

### <人々は光よりも闇を愛した>

それはこの教えが人々のニーズ (needs) にマッチしているからなのです。聖書は以下のように人々が何故進化論という闇の教えを選ぶようになるのか、その理由を語ります。

**“人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。”**

彼らが闇の教えを選ぶ、その理由は彼ら自身の行いが悪いからなのです。人々にとり、人間が神により創造された、という正しい光は耐えがたいのです。正しい神が存在しており、神により死後自分の罪が裁かれる、という真理は耐え難いことなのです。自分の行いが悪いので、正しい神が存在している、という真理には耐え難いのです。

それで、彼らは進化論という闇の教えに引かれていき、この教えを大歓迎しているのです。進化論は神が存在しない、と説き、死後の裁きなど存在しない、と説きます。それで、自分の行いが悪い人々には願ったりかなったりの素晴らしい教えなのです。

### <光は既に世に来ている>

このようにして進化論という闇の教えが入ってきたので、神が存在している、神が人を創造した、という真理の光は追い出されました。

ですから今の時代の人にとっての問題とは、真理がない、真理の光が存在しない、ということではないのです。世界の創造、人間の創造に関してはすでにはっきりした真理の光は与えられているのです。問題は、そうであるのに、人々があえて真理の光に背を向け、逆に進化論という闇の教えを嬉々として迎え入れた、このことが問題なのです。

人間の成り立ちや誕生に関して神が全く説明していない、説明責任を果たしていない、という問題ではないのです。そうではなくて、既に明白な光が与えられているのに、人々があえて、その光に背を向け、嬉々として進化論という闇の教えを選び取った、ということが問題なのです。

### <キリスト教会にも闇の教えは広がっている>

さて、進化論のことは未信者の問題です。しかし、クリスチャンの間でも光よりも闇を愛する、ということは起こり得ることを知しましょう。

たとえば、カソリックにおいては、地獄は存在しない、との教えが語られています。神は愛なので、人を地獄や火の池で苦しめることなどしない、という教えです。それは本当でしょうか？この地獄や火の池に関して聖書の正しい光は以下の様に明白です。

## 「光よりも闇を愛する」 by エレミヤ

黙示録 20:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

ここでは、明白に「いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」として死後、多くの人が火の池に投げ込まれることが書かれています。地獄は存在しており、火の池も存在しているのです。

このように聖書の記述は間違えようのないほど、明白なのに、何故カソリックでは、偽りの光が歓迎され、まかり通るのでしょうか？

その理由は、「その行ないが悪かったから」なのです。カソリックの人々はその行ないが悪く、それゆえ、死後火の池に投げ込まれる、という正しい光には耐えられないのです。それで、「地獄は存在しない、火の池に投げ込まれることはない」との闇の教えに引っかかってしまうのです。

しかし、このことに関して彼らの誤りには弁解の余地はありません。彼らは聖書を持っていないわけでもなく、上記黙示録の火の池の記述を知らないわけではないのです。しかし、彼らはそのような神のことばや真理の光に背を向けてあえて地獄はない、との闇の教えを選んだからです。

### <キリストの再臨に関する光>

今度はクリスチャンは終末の艱難時代を通過するかどうかという問題を考えてみましょう。別の言い方をすれば、クリスチャンは艱難を経過しない、その前に挙げられる、という艱難前携挙説は正しいのかどうかを考えてみたいのです。

クリスチャンは終末の艱難を通過するのかわからないのか、という問題に関しても実は既に

真理の光は与えられています。以下が聖書の真理の光です。

黙示録7:9 その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゆろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。

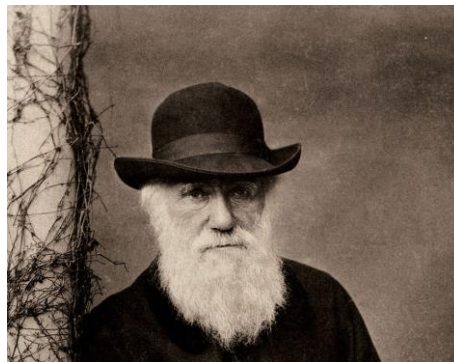
7:10 彼らは、大声で叫んで言った。「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。」

7:11 御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、

7:12 言った。「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」

7:13 長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、いったいだれですか。どこから来たのですか。」と言った。

7:14 そこで、私は、「主よ。あなたこそ、ご存じです。」と言った。すると、彼は私にこう言った。「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。」



闇の教え：ダーウインの進化論

## 「光よりも闇を愛する」 by エレミヤ

ここでは、「あらゆる国民、部族、民族、国語」のクリスチャンが大きな患難を経過することが書かれています。すなわち、世界中のクリスチャンは艱難時代を経過する、ということが聖書の正しい光なのです。従って、クリスチャンは艱難に会わない、その前に挙げられる、とする艱難前携挙説は闇の教えであることがわかります。もう一つ見てみましょう。

**マタイ24:9** そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。

このマタイ24章の終末の預言の中で主は「そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。」と語ります。すなわち、我々は患難に会うことを語っているのです。これが正しい光です。従って終わりの日にクリスチャンは患難に会わない、とする艱難前携挙説は聖書とかけ離れた闇の教えであることがわかります。もう一つ見ます。

**マタイ24:13** しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。

ここでは、患難を最後まで耐え忍ぶものは救われることが語られています。クリスチャンが患難を経過しないなら、耐え忍ぶ必要などありません。従って患難を経過する、との教えが正しい真理の光であり、それと矛盾する患難前携挙説は闇の教えであることがわかります。さらにもう一つ見ましょう。

**マタイ24:21** そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。

**24:22** もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。

ここには正しいクリスチャンには、「世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難がある」こと、しかし、「選ばれた者のために、その日数は少なくされ」ることが書かれています。クリスチャンは艱難を経過するからこそ、その日数が少なくされることに意味があります。経過しないなら、日数が少なくても長くても何の関係もありません。ですから明らかに聖書の正しい光はクリスチャンが艱難を通過することを語っているのです。もうひとつ見ましょう。

**ヨハネ16:33** わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

ここでは、主ご自身がその弟子たちに対して、「あなたがたは、世にあっては患難があります。」として弟子が必ず患難を経由することを語っています。もちろん、12弟子が直接艱難時代を経由する、ということはないのですが、しかし、12弟子に連なる終末の日の弟子たちは必ず、艱難を経由し、艱難時代を経由することを語っているのです。ですから、弟子は艱難時代を経由する、それが正しい光なのです。従って弟子は艱難を経由することはない、と語る艱難前携挙説は聖書と異なる闇の教えであることがわかります。

今まで見てきたように、聖書には、正しいクリスチャンが艱難に会わない、とするみことばはなく、逆に多くの聖書箇所は正しいクリスチャンが艱難に会うことを語るのです。ですから、これらのいくつもの聖書箇所を通して、クリスチャンは艱難を経過しない、とする艱難前携挙説は聖書と矛盾する闇の教えであることがわかるのです。



### ＜艱難前携挙説は闇の教え＞

クリスチャンは艱難に会わない、とする艱難前携挙説は長いキリスト教の歴史の中で、決して正しい教理、正当な教理として受入れられたことのない異端教理でした。ルターもウエスレーもこのようなおかしい教理を受入れてはいませんでした。キリスト教会の長い歴史の中にはそれこそ、あらゆる種類のおかしい教理が起きてきました。キリストは神ではない、との教理を語る人々もかつては存在はしたのです。しかし彼らの教理は異端として退けられてきました。艱難前携挙説も同じく、異端として誰も受入れることのない教えだったのです。しかし、教会時代の終わりに近づくにつれ、闇が教会を覆うようになってきました。

人類の歴史とは正しい真理の光が現れた歴史でなく、逆に闇の教えにより真理の光が消えうせる歴史です。以前の人々は誰でも神の存在を信じていました。それがこの世の常識だったのです。しかし、19世紀にこの世の人々が正しい真理の光を退け、神は存在しない、人間は偶然にできた、とするダーウインの進化論を受入れるようになりました。それ以前の時代でも神は存在しない、とおかしいことを言う人は存在していたのですが、闇が優勢になることはなかったのです。しかし、進化論以来、この世においては闇の教えが優勢であり、光は世から消えていきました。

艱難前携挙説にも同じことが言えます。この教えは19世紀にイギリスのJ. N. Darbyにより教会に持ち込まれた闇の教えです。それ以前このようなおかしい教理を語る人々がいなかった、存在しなかったわけではないのですが、しかし、キリスト教会には光が残っており、異端と戦う力もあったのです。19世紀以前はこのような闇の教えがキリスト教会を席卷することはありませんでした。

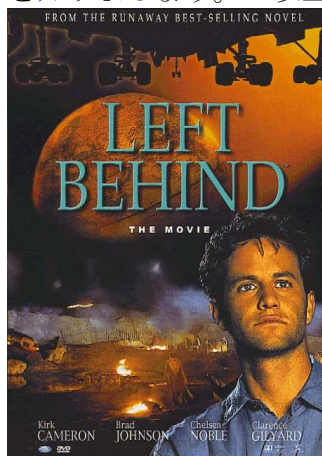
それ以前のクリスチャン、たとえば、ルターにしてもウエスレーにしてもこのような闇の教えを提唱せず、同調してはいませんでした。

た。彼らには良識があり、光があったのです。しかし、19世紀以降、闇が教会を覆い、真理の光は消えうせていきました。

### ＜行いが悪いので真理の光に背を向ける＞

今まで見てきたように、艱難前携挙説とはあらゆる聖書の真理の光と矛盾するおかしい教えです。そうであるのに、何故だかこの教えをすっかり信じ込んでいる人々が多いのです。このように艱難前携挙説は多くの正しい聖書の光とは異なるのに、何故人々はあえてこの教えを選ぶのでしょうか？

その理由は聖書によるなら、「その行ないが悪かったから」なのです。彼らはクリスチャンが艱難に会う、キリストのために苦しみ会う、という真理の光に耐えられなかったのです。そして、そのような心の闇を闇の教え、艱難前携挙説が満たしたのです。それで、彼らは明々白々な「正しいクリスチャンは艱難に会う」という真理の光に背を向けあえて「艱難前携挙説」という闇の教えを受入れるようになったのです。しかし、このような偽りや偽りの教えを提唱することには、決して神からの祝福はありません。悔い改めて正しい聖書の光に立ち戻る必要があります。これを知りましょう。—以上—



闇の教え：艱難前携挙説

時を見分けなさいと主イエスは言われました。今はどのような時なのでしょう。

今現在、ヨガと瞑想は世の中を席卷しています。日本でもあらゆるところにヨガのクラスがあり、アメリカにおいても同様です。ヨガと共に瞑想も多くのところで行われています。アップルの創始者スティーブ・ジョブスも行ってた「マインドフルネス」瞑想法も多くメディアに取り上げられており、グーグル、ゴールドマンサックス、P&Gなど、ほかにも世界的企業が社員の研修にマインドフルネス瞑想を用いています。アメリカの大学や公立の小学校でも、ヨガやマインドフルネスなどの瞑想が多く用いられています。ヨガや瞑想は一般的にストレスが軽減され、健康効果があると謳われているため、多く人々が気軽に言うような時代になっているのです。

現在のプロテスタント教会はどうでしょう。プロテスタント教会の中心であるアメリカの教会では多くのヨガクラスがあります。デイブ・ハント(Dave Hunt)は彼の著書『ヨガとキリストの身体』で「キリスト教会とヨガ」とグーグル検索でしたところ50万件以上も存在していると指摘しています。

現在アメリカには、イエスヨガ、ホーリーヨガ、キッズホーリー(JesusYoga ,Holy Yoga, Kid' s Holy Yoga)など、ヨガをするクリスチャンのネットワークがあり、そこでは、ヨガと瞑想がキリスト教の信念を深めていくと述べられています。そしてキリスト教のヨガ雑誌が発行されています。はたしてヨガや東方の瞑想はキリスト教に調和させることなどできるものなのでしょうか。

出エジプト34：12で「あなたは、注意して、あなたが入って行くその地の住民と契約を結ばないようにせよ。それがあなたの間

で、わなとならないように。」

出34：15でも「あなたはその地の住民と契約を結んではならない。彼らは神々を慕って、みだらなことをし、自分たちの神々にいけにえをささげ、あなたを招くと、あなたはそのいけにえを食べるようになる」。

とあります。主は、イスラエルの民に異教のものを受け入れることは滅びの畏であると警告されていました。しかしイスラエルの民は異教徒たちと交わり、神の怒りを受けました。ヒンズー教のヨガ、東方の神観の瞑想は、異教の物であり、これを取り入れることは明らかに神の忌み嫌うことでしょう。これらは相容れないものであり、キリストを信じる信仰と全く矛盾しているのです。

さらにヨガや瞑想は、一般的には、害のない健康的な物と考えられていますが実際はそうではありません。

ヨガは、「ヨガはオカルトに通じており、ヨガは真正銘のオカルト主義である。オカルトの能力はヨガの鍛錬を通じて得ることができる」(『超能力とオカルト』クリフォード・ウェルドン、ジョン・ウィルソン共著) のです。

Reap the HarvestのSherif Michaelは「キリスト教とヨガ」で、「瞑想やヨガは、多くの場合、不安障害の原因となります。瞑想やヨガにより非現実的意識や精神分裂、鬱症状を体験する」また「ヨガの鍛錬を誤解することが死や精神異常を意味するとなれば、ヨガは単なる冗談で済まされることではない。(呼吸法に)誤りがあれば、その人は即死の危険にある。

ヨガの鍛錬におけるわずかなミスでも失神、トランス状態、精神異常等に陥る事があります。スワミ・プラバーヴァナンダのヨガおよび神秘思想では、誤ったヨガの鍛錬により、脳損傷、治癒不可能な病気、精神異常が起きる可能性がある」と警告しています。」と述べています。ヨガや瞑想は心身、霊的に非常に危険であると考えるべきでしょう。またマインドフルネス瞑想を行っているHPにおいても、瞑想を実践する際の注意として、精神錯乱や鬱、最悪の場合は自殺が起こる事がある、という注意事項が書かれています。瞑想は健康を促進するものと言いながら、実は恐ろしい副作用があることを注意事項としてHPに乗せているのです。瞑想は非常に危険を伴うことを主催する側は認識していません。悪霊的なこの危険性について、健康の為に瞑想を実践している人々のどれくらいが認識しているでしょうか。

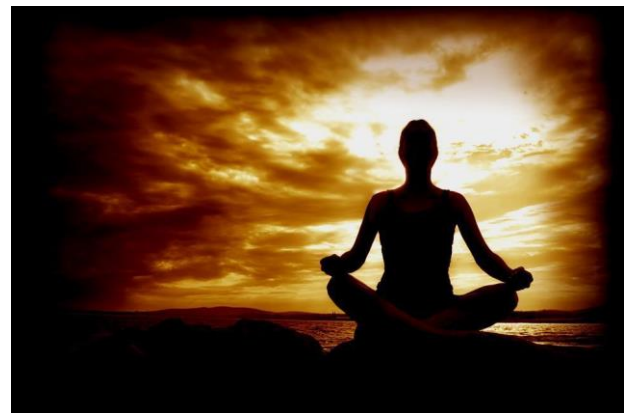
一般においても危険が潜んでいるといわれるヨガや東方の瞑想を、教会の中に取り入れることは、非常に危険な行為です。それにもかかわらずアメリカの教会では多くの瞑想のプログラムがあります。一例として、今もっとも有名で影響力のある牧師の一人であるリック・ウォレン(Rick Warren)は体重軽減に苦しむ教会員のために「ダニエル・プラン」(The Daniel Plan)をつくりました。このプランは身体の健康を保つために非常に有益にみえますが、恐ろしい落とし穴があります。このプランの指導者である3人の医師はイスラム教神秘主義者のメット・オズ博士(Dr. Mehmet Oz)、レイキの霊的エネルギー実践を教える精神科医ダニエル・アメン博士(Dr. Daniel Amen)、仏教の瞑想を教えるマーク・ハイマン博士(Dr. Mark Hyman)です。彼らはすべて異教の瞑想を推奨しており、ダニエル・プランにおいても瞑想がその中に組み込まれています。彼らはクリスチャンではなくイエスを否定する人たちです。彼らは神が忌み嫌う異教の瞑想を教会に持ち込んでいます。また、リック・ウォレンのRWTtoolboxツイッターで、ウォレンは「祈りのセンタリング」“centering prayer”:という瞑想実践を

信徒に指示し勧めています。

以前はヨガや瞑想は異教的であると拒否していたクリスチャンもプロテスタント教会に多くのヨガクラスができ、瞑想を牧師が推奨していることで、警戒心がなくなり多くの人が受け入れるようになりました。今やキリスト教会においてヨガや瞑想という霊的に危険で異教的な物がすっかり定着してしまいました。

### 第二ペテロ 2 : 1

しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現れるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。第二ペテロ 2 : 1でペテロが警告していること、滅びをもたらす異端がにせ教師によって入り込んでいる事態が、今の時代に起こっていることを悟らなければなりません。



ヨガ

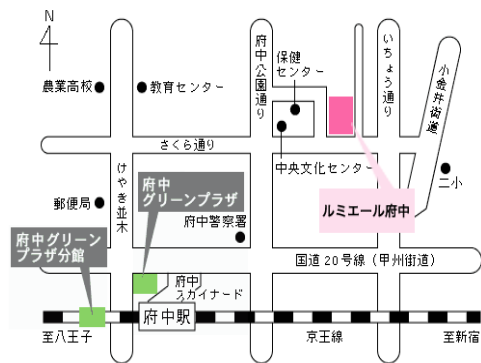
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。  
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255  
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30  
 午後 14:00-16:00  
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館  
 (tel:042-360-3311)  
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、  
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。  
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)

★教会のHPもあります。  
 ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。  
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

★クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

★クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

★クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

★ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>